



～戮力協心～

NO.35
その1

2023年3月10日

発行責任者 池尻 和寛

編集責任者 情 宣 部

会社:ベアについて実施したい。昨年以上提示できるよう社内議論していく。
組合:直近物価高4%で『昨年以上』では基準が低すぎる！再考せよ！

2023JR総連春闘

第3回交渉～会社の考え方～

交渉内容

■ベアについて

- 組合:**『ベアを実施したい』ということだが、いくらぐらいの額で議論をしているのか？
また、職群別基本給表の基準額・最低額・年齢保障給の表の書き換えもされるのか？
- 会社:**昨年(0.1%)以上を出せるようにしたいという考えであって、具体的な数字はまだない。社員の期待に少しでも応えたい。手当ではないため、基準額・最低額・年齢保障給は書き換えられる。
- 組合:**物価高について認識していると言うが、ベア0.1%より少し多いぐらいでは生活は苦しいまま。真綿ではなく本当に首を絞められている状況だが、会社としてはどうするのか？
- 会社:**生活食料品を除いて物価上昇率は平均で2.3%の認識である。会社も苦しい収支状況の中で会社に悪影響を及ぼさない範囲の賃上げ議論をしている。
- 組合:**悪影響のないとはどういうことか？組合員の生活が苦しいことは知っているはず。物価高2.3%というのであれば、ベアは最低2.3%からではないのか！
- 会社:**将来に禍根を残さないための賃上げ判断をしていく。
- 組合:**物価高は年収ベースが低い青年部員ほど影響を受ける。会社はそこにスポットを当てて判断をするべき。
- 会社:**判断材料に入れて考える。
- 組合:**会社は『長期グループビジョン2030』ということで、グループ会社との連携含めた計画を立ててグループ一体感を強めようとしているが、本体であるJR貨物が、しっかりとベアを満額出さなければ、グループ会社は本体の顔色を見ているため、グループへの波及を鑑みてベアの判断が必要である。
- 会社:**それぞれ各企業での交渉判断と思っているが、主張は理解した。

※その2へ続く